



社会人入学・編入学 ガイド

● 「社会人入試」とは何か？

「もう一度大学で学び直したい」「専門を変えたい」「専門性を高めたい」「資格を取りたい」「一度は大学生になってみたい」など、人によって理由はさまざまですが、社会人になってから大学で学びたいという人が今、非常に増えています。

大学で学びたいという思いはあっても、学校を出てから何年もたっている社会人には、高校生や大学生と同じ受験勉強をするというのは困難です。こういった社会人を対象に実施されているのが社会人入学の制度です。

「社会人入試」、「社会人推薦入試」、「社会人特別選抜」など、呼び方はいろいろですが、社会人に対して広く大学の門戸を開くために、一般入試とは別の方法で、あるいは別枠で社会人に入学を認めるというものです。「小論文、英語、面接」や「小論文、面接」で選考されることが多く、中には、書類審査と面接だけという大学もあります。

● 定着してきた社会人入学

この画期的な社会人入試を初めて実施したのは立教大学の法学部で、1979年のことでした。以後社会人入試を実施する大学は増え続け、2000年度には、国立45大学、公立35大学、私立282大学で、合わせて362大学で実施するまでになりました。全大学の半数以上の大学で社会人学生の入学を積極的に行うようになってきたのです。

従来、アメリカをはじめ欧米の大学では、20歳前後の学生だけではなく非常に幅の広い年齢層の学生が学んでいます。日本でも、社会人が大学で学ぶというもの決して特別のことではなくなってきています。今や、社会人学生抜きに大学は存在できなくなってきているともいえそうです。

「社会人入試」とは何か？

学部1年次への社会人入学、2・3年次への編入学・社会人編入学、さらに、大学院も、修士課程への社会人入学、博士課程への社会人入学というように、ひとくちに社会人入学・編入学といってもいろいろあります。

一から勉強し直したいのなら、あるいは専門を変えたいのなら学部1年次へ入学するのもいいし、編入学をしてみてもいいでしょう。大学卒業の資格があるのなら、大学院への進学も可能です。あなたの目的にあった進学のパターンを選んでみましょう。

学部1年次への社会人入学

通常、高校を卒業していれば大学へ入学する資格があるのですが、社会人入学の場合は、「高校卒業」あるいは「大検」といった大学入学資格を満たしているだけでは出願資格はありません。

社会人入試の出願資格は大学によっていろいろです。「何歳以上」、「社会人としての経験年数」、あるいは「有職者」といった条件がついているのが一般的です。「有職者」には、主婦を含むという場合が多いのですが、「定職者に限る、アルバイトは含まない」とする大学も少なからずあります。これはいわゆる「大学浪人」と、「社会人」とを区別するためのものです。

編入学・学士入学

大学の入口には1年次のほかに、2年次とか3年次といった途中の年次への入学もあります。これを編入学と呼んでいます。編入学するには、短期大学や高等専門学校、4年制大学を卒業あるいは卒業見込みであること、大学に1年ないし2年以上在学していることが必要となってきます。また、1999年度入学から、専修学校（修了年限2年以上、総授業時間数1700時間以上）の専門課程修了者にも4年制大学への編入学資格が認められるようになりました。こういったさまざまな学歴を持った人に対して、大学の1年次からではなくて、2・3年次といった途中の年次への入学を認めるのが「編入学」なのです。また、大学を卒業した人の編入学のことを特に「学士入学」と呼ぶ場合もあります。

編入学の資格はこのようにいろいろありますが、希望する大学を受験できるとは限りません。これは、大学によってこれらの編入学資格のうちどれを出願資格として認めるかが違っているからです。

これらほとんどの編入学資格を出願資格として認めている大学もあれば、高等専門学校卒業者だけに限る大学、学士入学しか認めない大学もあります。また、大学に在学中の人や退学した人の場合は、「何単位以上修得していること」という条件がつくことも多いようです。また、同系統の学部・学科の出身者だけに限る大学、大学に在学中の人の編入学を認めない大学などさまざまです。中には、併設の短期大学の卒業生しか認めない大学もあります。

しかし、最近では、特定の資格、たとえば「高等専門学校の卒業者に限る」「学士入学に限る」といった大学は少なくなってきました。短期大学卒業者や大学に在学

中あるいは中退者など各種の学歴を持つ人の編入学を認めていくという傾向にあります。

では、編入学の募集はどのように行われているのでしょうか。編入学には「欠員がある場合に募集する」「志願者があれば受験を認める」「編入学定員枠を設けて募集する」の3つのケースがあります。最近は、定員枠を設けて編入学を募集する大学が非常に増えてきています。

社会人編入学

編入学を希望する社会人が増えていますが、編入学の場合は、社会人であっても現役の4年制大学や短期大学の学生と同じ編入学試験を受けなければなりません。しかしこの編入学においても、まだ数は少ないとはいえ、社会人特別選抜を実施する大学があります。

このところ編入学定員枠を設ける大学や、あらたに編入学の募集を始めている大学が増えてきていますが、「社会人特別選抜」という名称で募集していなくても、募集の対象を「社会人」と考えている大学が多いようです。出願資格に「社会人」という条件は付けていなくても、社会人の再学習・生涯学習の場として大学を開放するために編入学を実施しているケースがみられるのです。

大学院への社会人入学

大学院へ進学しようとする社会人が急激に増えてきています。これに呼応して、社会人が大学院へ入学しやすいように、出願資格や選考方法を社会人向きにした「社会人特別選抜」を実施している大学が増えてきています。

大学院の社会人特別選抜は、1984年度に大阪大学経済学研究科経営学専攻において実施されたのが始まりです。この10年の間に特別選抜を実施する大学院が増え、1999年度には、国公私立の276大学で実施しています。学部における社会人特別選抜は、私立大学を中心に広がっていきましたが、大学院については国立が先駆けとなり、社会人の受け入れを積極的に進めています。

大学院修士課程（博士前期課程）へ入学できるのは「大学を卒業した者」であり、博士課程（博士後期課程）へは「修士の学位を取得した者」というのが基本です。

しかし、「大学評価・学位授与機構」という国立の機関が認める「学位」を取得した者も、大学院の受験ができるようになりました。

また、「大学を卒業した後、官公庁や企業の研究所などで2年以上研究に従事していて、修士の学位を有する者と同等以上の学力がある」と、出願先の大学院で認定されれば、博士後期課程の受験も可能となっています。つまり、研究歴があり、研究業績があれば、大学卒業者であっても博士後期課程へ進学できるというものなのです。

1999年には、これまで大学院への入学資格を持たなかった人にも、入学の道が開かれています。「各大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したものに大学院への入学資格を認める」ということになったのです。これは、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生などで22歳以上であれば、各大学の大学院における個人の能力の

個別審査に通れば、その大学院への入学資格を得られるというものです。また、「各大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものに博士後期課程への入学資格を認める」ということになりました。これらの資格を2000年度の募集から既に認めている大学もあり、2001年度からは、かなり多くの大学でこの資格を認めることでしょう。

さらに、注目されているのが、学部や修士課程を基礎としない独立研究科や独立専攻です。この独立研究科や独立専攻は、新しい学問領域や学際的な学問分野という場合も多く、いろいろな学部出身者や社会人を積極的に受け入れている大学院です。

勤務しながら大学や大学院に通学できるか

では、仕事を持っている社会人が在職のまま大学や大学院に通学することが果たして可能なのでしょうか。

学部、あるいは大学院の場合も、企業などに在職している人が、現職のまま昼間に大学へ通学するのは難しいことです。上司や同僚に理解があり、現職のまま通学している人も中にはいるようですが、昼間に通学するとなるとやはり「派遣」ということになりそうです。こういった官公庁や企業からの派遣ではなくて、仕事を辞めて昼間の大学に進学しようとする人もいますが、最近増えているのは、勤務しながら通学可能な昼夜開講制の大学や大学院です。

昼夜開講制・夜間大学院で学ぶ社会人が増加

学部の昼夜開講制は、昼間主コース・夜間主コースと呼ばれています。夜間主コースでは、夜間や土曜日に開講される授業のほかに、昼間の授業を受けることもできます。今では、国立大学の二部（夜間部）は、ほとんどが夜間主コースに改組され、社会人の再学習の場としても開かれてきています。私立の学部では、これまで昼間主・夜間主コースを設けている大学において、フレックス、デイトタイム、アフタヌーン、イブニングといった名称の昼夜開講制のコースを設けるケースが増えています。一般の学生向けの昼夜開講制が多くなってきてはいますが、こういった大学でも夜間だけで履修可能なコースも残されています。

社会人が勤務しながら大学院へ通学可能なのは、何といても夜間大学院です。国立大学では、2000年度には筑波大学、千葉大学、東京学芸大学、大阪教育大学と岡山大学に、私立大学では10大学に修士課程の夜間大学院が設置されています。さらに、私立大学の多摩大学経営情報学研究科には、博士後期課程の夜間大学院が1995年度に初めて設置され、青山学院大学、東洋大学、早稲田大学、武庫川女子大学にも設置されました。国・公立にも博士後期課程の夜間大学院を設置している大学があります。

また、昼夜開講制は、大学院設置基準の14条に基づいて「通常の時間帯以外の時間に授業を行う」という特例として実施されています。たとえば、2年間とも昼夜開講制の授業を受けることができる大学、1年は昼夜開講制の授業を受けてもう1年は昼間の授業（演習）を受ける大学、1年は学業に専念しあとの1年は在職しながら

昼夜開講制の授業を履修する大学、夏期休暇・冬期休暇中に集中講義を行う大学など、大学により時間等その取り扱いは異なります。

このような形で、夜間に授業を行ったり、さらに社会人向けの選考方法をとっているなど積極的に社会人の再学習の場として開いている大学院も多くみられますが、開講される授業の時間帯などが、入学する前にわかりにくい例もあるようです。

2000年度に昼夜開講制を実施している大学は、国公立大学合わせて、196大学406研究科にのぼっています。社会人の中には、新幹線で通学してでも修士課程で学びたいという人が少なからずいるくらい、大学院で学びたいという人が増えています。大学側も、社会人が通学しやすいように都市部で大学院の授業を開講するなど、勤務しながら大学に通学可能な環境を次第に整えてきています。

試験はどのように行われるのか

学部1年次、編入学、大学院修士課程・博士課程、これらいずれにおいても、社会人特別選抜の場合は社会人ということを配慮した試験科目で選考するか、あるいは試験科目は一般選抜と同じであっても、定員に社会人枠を設けていたり、社会人ということを考慮して選考が行われているようです。

選考方法

[学部1年次入学]

学部1年次の社会人入学の場合、国公立大学ともに「小論文・英語・面接」あるいは「小論文・面接」で選考する大学がほとんどです。大学によっては書類選考と面接のみというところもあります。また、英語は「辞書持ち込み可」という大学が多いのも心強いことです。もっとも、試験中は時間に追われ、辞書を引いている時間はあまりなさそうです。いわゆる文法の問題ではなく、英語の読解力を試す試験が多いようです。また、社会人特別選抜の場合、出願時に志望理由書を提出するという大学がほとんどです。

国立大学に入学するためには、大学入試センター試験を受験しなければ入学できませんが、社会人特別選抜の場合はセンター試験はほとんどの大学で免除されています。

[2年次・3年次編入学、学士入学]

2年次・3年次への編入学は、一般の学生と同じ試験を受けるのでかなりの準備が必要となってきます。編入学で最も多い選考方法は、外国語、専門科目、面接というパターンです。外国語は、英語だけのところと、第2外国語もあるところがあります。社会人特別選抜の編入学の場合は、専門科目の試験のかわりに小論文という場合が多いのですが、最近は、一般の編入学でも、専門試験のかわりに小論文で選考する大学も増えてきています。なお、編入学や学士入学の場合も、1年次の社会人特別選抜と同様、センター試験を受ける必要はありません。

[大学院への社会人入学]

修士課程（博士前期課程）の一般選抜の場合には、外国語、専門科目、口述試験によって選考することが多いのですが、社会人特別選抜の場合は、専門科目のかわ

りに小論文の試験が行われていることが多いようです。語学の試験もなく「小論文・面接」によって選考する大学院もあります。ただし、入学試験に語学の試験はなくても、大学院では、語学力、特に英語は、専門論文を原書で読みこなすために必須です。小論文の試験が多いのは、いろいろな学部出身者も受け入れるため、あるいは社会人特別選抜では、専門科目の知識よりも大学院において必要とされる基礎的学力を試すということを重点において選考しているためでしょうか。

大学院の社会人特別選抜の場合には、出願時に研究計画書を提出しなければなりません。この研究計画書はとりわけ重要で、研究テーマ、研究計画の概要を記入します。この研究計画書を書き上げる中で、これから大学院で何を研究したいのかをもう一度見つめ直していくという作業をするとよいでしょう。

面接が重視される

学部1年次の社会人特別選抜、編入学、学士入学試験では、面接や口述試験が重視されています。学部1年次の場合は、志望理由書を提出する大学が大半です。面接において、「なぜ入学したいのか」、「何を学びたいのか」という質問をされることが多く、志望理由、勉学意欲、判断力を見られます。これは、編入学や学士入学の場合も同じです。また、社会人の場合は、実際、仕事との両立は可能か、通学できるかということもよく質問されています。出願資格を満たした浪人生が社会人入試を受ける場合もあるようですが、志望理由がはっきりしないためか、合格者は少ないようです。面接は、意欲と志望理由の確認の場といえるかもしれません。

大学院の場合は、出願時に提出した研究計画書の内容を中心に文章構成力、論理性および研究を続けていく意欲を問われます。